

# 学林舎情報

NO. 214

共創ネットワーク

●発行日：2020年5月16日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行:教材出版 学林舎



## 学習の行き先 今、必要な学習を考える

新型コロナウイルスの影響により、現在も休校している学校が多くあります。学校で学習できないとき、家庭ではどのような学習をすればよいのでしょうか。今回は、家庭での学習方法をご提案します。

家庭での学習の仕方は、大きく2つに分けることができます。前学年までの復習と、これから学習する単元の先行学習です。休校期間が長期にわたる場合は、復習だけに特化せず、復習と先行学習を組み合わせるとよいでしょう。また、学校の授業では、関連する既習単元を振り返りながら新しい単元を学習します。そのため、新しい単元を学習する中で既習単元を理解することも可能でした。家庭でも同様に、復習にも取り組むことが大切です。

では、具体的にどのような学習がよいのでしょうか。

### 1. 復習

学校で使っていた問題集や、前学年の総復習ができる問題集に取り組みましょう。

問題を解くことで、その単元の内容を理解しているかがわかります。つまづいた問題が多い単元は、教科書やノート、資料集などを見直した後、単元別のドリルに取り組みましょう。そうすることで、理解の定着度を確認できます。つまづきがない場合には、応用問題を解いていきましょう。

### 2. 先行学習

新たに配布された教科書を読み、課題や問題に取り組みましょう。

教科書の本文を読んだ後は、ページの最後や単元の

まとめとなる、課題や問題に取り組んでみましょう。また、「数学単元別テキスト」や「算数ユニット学びに大地 演習の森」など、導入解説に詳しいテキストを使うこともよいでしょう。

まだ学習していない単元に取り組むときには、解説が特に詳しい教材を選ぶことが大切です。教科書を読むと、なんとなく理解した気になる人が多いですが、読むだけで終わらず、課題や問題に取り組んでみるのが重要です。課題や問題が解けるかどうかで理解しているかを確認することができます。また、導入の解説が詳しい教材のほうが、つまづきを少なくすることができます。

休校期間中の学習を進めるために、お勧めしたいホームページが2つあります。1つめは、文部科学省のホームページ「子供の学び応援サイト～臨時休業期間中における学習支援コンテンツ～」です。校種別の学習支援のほかに、家庭でできる運動や動画コンテンツのリンクがまとめられています。

2つめは、教科書会社のホームページです。各教科書会社のホームページでは、補助的な資料や教材、確認問題が掲載されている場合があります。休校期間中は無料となっている教材もあります。先行学習の理解が深まりやすくなるため、一度、持っている教科書のホームページを探すことをお勧めします。

家庭で学習するにあたって、環境や持っている教材から継続的な学習が困難なこともあります。一方で、子ども自身のペースで主体的に学習できるという利点もあります。子ども自身が時間割をつくって生活するなど、メリハリをつけて、学習を継続していくことが大切です。

(文/学林舎編集部)

## 学習の行き先 デジタル学習とアナログ学習の バランスを考える

教育におけるデジタル化に向けた大きな動きとして、令和2年度から実施されている新学習指導要領において、これまでの紙の教科書を主な教材として使用しながら、必要に応じて学習者用デジタル教科書の併用が可能になったことが挙げられます。導入のねらいには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする子どもたちへの学習上の支援などがあります。

デジタル教科書は、紙の教科書とまったくの同内容であり、授業で教科書として使うことができます。ただし、義務教育における教科書は無償給付されますが、デジタル教科書はこの対象ではありません。また、デジタル教科書を作成するかどうかは、教科書会社が決めることができます。

デジタル教科書には、下記のようなメリットがあります。

- ・ 拡大表示ができる
- ・ 書き込みや消すことが簡単にできる
- ・ 読み上げ機能やルビ表示機能がある

授業での活用例としては下記のようなものがあります。

・ 国語の授業では、物語の主人公の心情変化を読み取る学習で、デジタル教科書のマーカー機能を使って、変化の根拠となる場面には「赤」、主人公の様子には「青」で印をつけ発表する。

・ 算数の授業では、課題の文章や図表部分のみを拡大して表示させることで、事前に課題と見開きページにある解法に触れることを防ぎ、十分な考察活動が可能になる。

なお、教科書内の写真から動画を再生できたり、算数の図形を動かしたりといった機能を備えているのは

「デジタル教材」で、デジタル教科書ではありません。今回の改訂で制度化されたのはデジタル教科書のみです。

デジタル教科書の導入には、タブレット端末の支給や、学校のインターネット接続の問題、教師の操作の習得など課題が多く、今回の改訂を機にデジタル教科書が一気に広がるとは言い難い状況です。

デジタルでの学習は現状、学校よりも通信教育サービスでより使われていると考えられます。タブレットを使った学習の多くは、ゲーム感覚で取り組めるものや、課題を終えるとポイントをもらえるものなど、子どものやる気を引き出す仕組みが準備されています。漢字の書き順を動画で確認できたり、英語の発音を聞いたりチェックしてもらったりと、デジタルでの学習には多くのメリットがある一方で、漢字や筆算の練習問題で入力しづらいなどのデメリットもあります。

紙とデジタルのどちらかのみでまかなえるということではなく、メリット・デメリットを考慮して併用することで、より充実した学習効果が期待できます。

(文／学林舎編集部)

## 家庭学習の行き先 親と子の距離感

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、休校がいまだに続いている地域も多くあります。こういった中でも勉強は続けていく必要がありますが、家庭学習において、親はどのように子どもに接すればよいのか、考えていきます。

現在、自治体などの家庭学習への対応は、地域や学校によって差があるようです。日々の家庭学習を継続して行い、学力を保つためには、親の役割が大きいと言えるのではないのでしょうか。

まず、家庭学習の中心となるのは、漢字や計算のように、授業で習う基本的なものがよいでしょう。日々の学習習慣を途切れさせないためにも、毎日の宿題で出ているような計算問題や漢字、音読などの学習をさせましょう。

教科書や市販の教材の問題に取り組みせるほかに、読書や、図鑑を使って調べ学習をさせることもできます。新聞を読んだりニュースを見たりして、自分の考えを言わせることも、子どもの力になります。

現在の休校措置を受けて多く公開されている、オンライン教材を活用するのもよいでしょう。ずっと教材やノートに向かうだけでなく、たまには動画を見せてあげること、理解が深まっていくこともあります。このとき、インターネットを際限なく使用させることはやめ、親の管理のもとで使用させましょう。

次に、家庭学習に取り組む時間についてです。子どもの体力やその日の体調に応じて、無理のない程度に設定させます。家にずっといるのだからと、長時間にわたって勉強を強要することのないように注意しましょう。

最後に、本題である家庭学習における親の役割についてです。学習中、常に親がつきっきりになってしまうとお互いにとってストレスになりかねませんので、子どもが自ら学習する時間、親と一緒に学習する時間を決めておきます。それも親が決めてしまうのではな

く、話し合った上で、お互いが納得した形で進めていくとよいでしょう。

時間も含めた「今日の予定」は自分で考えさせるようにしましょう。自分で考えた予定であっても、予定通りに進まないことはよくあることです。しかし、「なぜ予定通りに進んでいないのか。」という声かけをするのではなく、進んだ部分に注目し、褒めてあげることが、学習のモチベーションを保つことにつながります。

家族団欒の時間には、今日はどんな問題を解いたのか、どこが難しかったのかなどの質問をするのもよいでしょう。新たに学習した内容については、自分の言葉で説明させることが大事です。特に子どもが小学生であるなら、そのときに、「え？それってどういうこと？」など、分からないふりをするので、子どもは教えようとしてどんどん話すかもしれません。自分の言葉で説明させる機会を設けることで、より一層学習が定着するということもあります。また、その日学習した内容を、学習時間以外のふとしたタイミングで、早押しクイズのように問題を出すことで、子どもの理解を助けることもできます。「勉強をさせられている。」という感覚を植え付けてしまってはいけませんので、あくまでもゲーム感覚で、子どもが楽しめる範囲で試してみるとよいでしょう。

子どもだけでは、うまく学習計画を立てるのは難しいですが、親がすべてを決めてしまえば、子どもの主体性がうまく育ちません。予定や学習内容について親子でよく話し合ひましょう。そして、子どもの意見を取り入れながら学習を進めていくことで、親子のほどよい距離感を保つことができるのではないのでしょうか。

(文/学林舎編集部)

# クロスロード Crossroad

第105回 文／吉田 良治

## ● 秋入学の議論の前に

新型コロナウイルス・新型肺炎の感染拡大を受け、国から緊急事態宣言が出されました。教育機関の多くは休校となり生徒は自宅待機を余儀なくされています。多くの生徒は授業が受けられず、学業が停滞するケースが一般的です。オンライン授業を提供する教育機関もありますが、アクセスが集中するとサーバーがダウンしてライブ授業を受講できないケースも出ており、まだまだ機能しているというレベルではありません。自治体によってはウイルス感染者があまり出ていないところでは、徐々に休校を解除されるかもしれませんが、3か月間ほとんど授業が受けられなかったので、来年3月までに後れを取り戻すため土曜日に授業をするほか、夏休みや冬休みをなくすという案もあるようですが、教室にエアコンが設置されていない学校もあるようですので、真夏にエアコンのない教室で授業をすると、熱中症などのリスクも出てきます。

そこで検討が始まったのは秋入学の議論です。元々海外の多くの国では秋が新学期になるので、特に大学などでは日本の学生が留学する、海外から留学生を受け入れる上で、日本の春新学期は不利といわれてきました。数年前東京大学でも真剣に秋入学に移行する検討もされましたが、一大学だけでできることではないので、全国の大学、そして大学進学をする高校生、さらに中学生、小学生と、全ての教育機関が共通して実施されなければ秋入学は実現できません。そのためギャップタームを設けて、半年間準備期間を設けることが必要になるので、半年間のロスをどうするのか、結局そこで秋入学の議論はストップしたままでした。しかし今回は新型コロナウイルス・新型肺炎の影響で、

この3か月間授業が止まっている状態、まだウイルス感染のリスクがある中、無理に对面授業を再開するよりも、このまま夏休み終了まで休校を継続して、全ての教育機関が9月から一斉に新学期を迎えるということが、休校期間中の学業の遅れを取り戻すうえで一番いいのではないかと、ということが秋入学賛成派の意見です。

ただ、あと3か月自宅待機が継続されると、生徒の生活習慣の乱れが心配です。教室での对面授業があった時は、毎日規則正しく生活できていましたが、この休校期間中で朝寝坊や夜更かしなどが身についてしまった児童も少なくないようです。また、親の虐待も増えています。厚生労働省では全国の児童相談所が今年1～3月で、自宅訪問や児童の一時保護の対応をした児童虐待件数を公表しました。1月は1万4974件（前年同月比22%増）、2月は1万4997件（同11%増）、3月は2万2503件（同12%増）と、昨年より1～2割増加しています。フランスでも新型コロナウイルスの感染拡大で、ロックダウン・都市封鎖により児童虐待やDV件数が3割増えたとの報道もありました。親がテレワークなどで自宅にいる時間が長くなり、親子が長時間・長期間同じ家で過ごすことで、それぞれのストレスがうまく発散できなかった結果ということでしょう。日本で秋入学が実現するとして、このままあと3か月間休校状態が続けば、家庭内での暴力がさらに増加するのかもしれません。

以前阪神タイガースで活躍したマット・マートンからメールが届きました。MLB シカゴ・カブスのフロントの仕事をしているマートンも現在は自宅待機だそうで、妻のステファニーさんと自宅で5人の子どもの家庭教育に取り組まれているそうです。アメリカではホームスクーリングが発展しており、日ごろから自宅で親が子どもの教育をする家庭も少なくありません。以前マートンと対談した際子育てについてこんな発言をしています。“子どもは神からの授かりもの。親の所有物ではない。子どもを立派な大人に育つお手伝いをする、その意識が大事だ！”

(つづく)